

今こそ「前へ！」

# 明大生のチカラ



先行きの見えない時代。近い将来の大学生活を思い描くことができない受験生も多いのではないのでしょうか。

明治大学には、コロナ禍に負けずそれぞれの課題に懸命に取り組む学生がたくさんいます。特色ある活動に主体的に取り組んだ明大生のお2人にスポットを当て、その思いを聞きました。

## 世界と地域の課題解決へ！ 「明治大学SDGsコーヒー」の挑戦

情報コミュニケーション学部 島田剛ゼミナール 4年 中山優衣さん

情報コミュニケーション学部の島田剛ゼミでは、2020年、フェアトレードの商品開発と街づくりに取り組む「神保町コーヒープロジェクト」をスタート。用意した「明治大学SDGsコーヒー」はすぐに完売、追加発注となるなど好評となっています。プロジェクトリーダーを務める中山優衣さんに聞きました。

プロジェクトについて教えてください。

島田ゼミでは国際貢献から地域の街づくりまで幅広く学べます。私は幼少期から国際支援に興味があったので、1年生から入室できる基礎ゼミの段階から所属しました。

明治大学のキャンパスがある神保町は喫茶店が有名で、「コーヒーの街」とも呼ばれています。そこに途上国の貧困問題などSDGsの課題解決を掛け合わせ、ソーシャル・ビジネスを目指すのが「神保町発、明治大学SDGsコーヒープロジェクト」です。

3年生だった去年9月にスタート。神保町に本社のある株式会社ミカフェイト代表取締役社長、「SDGs」川島良彰氏の「フェアトレードという概念自体をなくす」という考えに感銘を受け、協力をお願いしました。価値に見合った値段で取引すれば「フェア」という概念そのものが不要なのです。

コーヒー豆はコロンビアの農園で障がい者の方が育てたもので、売り上げは現地への支援になります。お話しも重視した、生産者にも消費

者にも「いい豆」です。ロゴやパッケージもゼミ生で作って、翌年1月に発売できました。

大変だったことは。

プロジェクトのほとんどのメンバーは初対面。国際貢献や街づくり、コーヒーなど関心のある分野はバラバラでした。でも、バラバラの意見を組み合わせ、こ私たちにしかできない活動になると思いい、国際支援と街づくり、コーヒーがうまくつながったプロジェクトになっていきました。コロナ禍でコミュニケーションが特に難しくなりましたが、空いた時間にオンラインでゲームをするなど何気ない時間を共有し、徐々に信頼関係



完成した明治大学SDGsコーヒー



商品の反響は。

大学のオンラインショップで発売後、わずか一週間で完売し、その後も何度も追加発注をいただきました。味についても、コーヒーが得意でない方から「ブラックでもおいしく飲める」と言っていたり、それほど好評でした。ただ、ここがやっとなポイントだと思っています。これからどうやって多くの人たちにSDGsコーヒーのメッセージを届けるか、どうやって活動を継続し売り上げをコロンビアの農園に届けていくか、しっかりと考えていきたいと思います。

### 受験生にひとこと

先生も職員の方も、まるで先輩のような距離感で相談に乗ってくれるのが明治大学。皆さんとの出会い、ここで4年間過ごせることに感謝しています。

今後に向けて経験が役立ちそうです。

国際支援をしたいと選んだ学部ですが、コーヒープロジェクトを通じて、社会貢献という大きな枠に視点が広がりました。卒業後はデジタルマーケティングの会社に進みます。情報発信スキルを身につけながら、国際支援・社会貢献の視点を忘れず、モノ本来の価値をきちんとしたメッセージで伝えられるように頑張ります！

受験生にアドバイスをお願いします。なりたいたい自分に近づくには、環境や人との出会いが重要と実感しています。その手段のひとつが大学選びです。明治大学はアットホームで、やりたいことがある人を応援してくれ、雰囲気も制度も充実していますので、私は100%おすすすめします。

## 話題の街頭ビジョンに

## 飛び出すCG作品を制作

総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 1年 小野源太さん

「3D巨大ネコ」で話題になった新宿駅東口の街頭ビジョンに、8月上旬、明治大学のロゴマークが飛び出す立体的なCG作品が放映されました。制作したのは、なんと学部1年生。総合数理学部先端メディアサイエンス学科の小野源太さんです。錯視(目の錯覚)を利用し、肉眼で見ても飛び出して見えるCG作品づくりは、チャレンジを応援する風土が後押しになったようです。

街頭ビジョンで放映されたCGは、明治大学創立140周年のロゴやメッセージが飛び出して、回転する大迫力の作品でした。

入学1年目でこんな機会をいただけるなんて、さすがに想像していませんでした。想定通り立体に見えるか、本当に緊張しましたが、うまくいってほっとしました。

制作のきっかけは。

先端メディアサイエンス学科では、オンライン上のコミュニケーションツール「Stack」で先生方から先輩、新入生まで全員で日々交流しています。授業、最新の研究、自分が作っている作品の話題まで、何でも受け入れてくれる雰囲気があります。そこである日、学科長でもある宮下芳明教授が「新宿の3D巨大ネコが面白いけど、同じような動画を作れないかな？」と何気なく発信したんです。

実際のCG作品放映の様子



印象的だった授業は。

総合数理学部では、文系科目を含め幅広い講義が受けられます。例えば心理学では記憶や知覚のメカニズムといった、今後の制作活動に生かせるようなテーマも多かったんです。ある講義ではマッキントッシュは心理学者が作ったことを学びました。人間が社会をどう見ているか知るのには、コンピュー

4日間。パソコン上で曲面ディスプレイを再現して、実際に3Dに見えるか確認できるよう工夫しました。毎日、宮下教授にお見せして、動きや演出のアドバイスをいただきながら改良していきました。作っている途中の段階で、大学公式の広告として放映を決めたいただき、作成開始から1週間ほどで実際に街頭に流れました。その時はどんどん進んでいくスピード感が楽しかったですし、応援してもらえることが本当にありがたかったです。

大学生活が充実しているように感じます。

先端メディアサイエンス学科は、新しいメディア技術を駆使した体験を生み出している学科です。実際に入ってみて「思いついたらすぐにモノとして作ってしまう」というスピード感がこの学科の面白さのだと実感しています。

今回のチャレンジを応援していただいたのもそうだし、教授や先輩方と壁がなく、みんなで新しいものを作ろうという文化があるのには、今後の研究や将来に向けてとても力づけられます。先生方からは「1年生でも研究したいことがあれば相談して」と言われますし、講義も面白く、毎日が楽しいです。

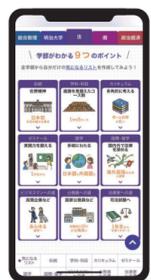
### 受験生にひとこと

宮下芳明教授、中村聡史教授らTwitterで発信している先生をフォローし、研究や人柄に触れていたのも志望校選びに役立ちました。



活発なやりとりが続くStackの画面

志望校選びでは、実際にどんな人がいて、どんな研究をできるのかという視点で考え、例えばSNSで先生方をフォローして、学科や研究室の温度感を感じるようになっていました。今、それは間違っていないと思います。今、それは間違っていないと思います。今、それは間違っていないと思います。



学部がわかる  
9つのポイント  
公開中

このページから  
学部を探そう!



2022年1月6日 一般選抜Web出願受付スタート!

※ 詳細等は、一般選抜要項(明治大学ホームページにて11月上旬公開予定)を必ずご確認ください。



明治大学は、2021年に創立140周年を迎えました。